



## 日本へ脱出した徐福たち (史記の中の冒険家②)

6月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所  
2022年6月11日(土)

「徐福」は約 2300 年前の人で、伝説上の人物であるとされていた。しかし、司馬遷が史記に記載しており、実在した人物である。「徐福一行」は中国封建時代の圧政から逃れるため、計画的に海外に移民し、日本列島各地へたどり着いたと考えられる。徐福が渡海し、「平原広沢を得、止まりて王となり」(淮南衡山列伝)、そこはアメリカ、中国東南沿海の海人族集団であるとする中国学者の説もある。

しかし、徐福たちが日本列島へ来る 1000 年前の約 3300 年前、日本列島へ来た人たちがいた。

殷の時代の「殷墟」からおびただしい「炭化した寶貝(子安貝)」が発見されているが、寶貝は銅銭が使われる前の貨幣であった。これは大陸沿岸にはなく、大陸からたくさんの人が日本海を超えて「鹿児島南部や琉球の宮古島」へ子安貝を採りに来ていたに違いない。

子安貝を採ることは、大きな金儲け(ゴールドラッシュ)であり、冒険心のある人が、危険を超えてやって来たのだろう。

青銅の貨幣が子安貝に取って代わってからも、彼等のある者は日本に定住し、大陸の最新技術、稲作を始めたに違いない。徐福が日本へ来る前に稲作が日本で始まっていたのはこういう事情だと考えられる。

徐福は息もつけないような、嚴罰主義の国「秦」から逃げ出したいと思ったに違いない。行くには金が要る。そこで「始皇帝」を「不老長寿の薬」をさがしに行くのだまして、童男、童女三千人とともに出航した。

これは、司馬遷の史記(始皇本紀、淮南衡山伝)に書いてある。

時代は下がるが、三国時代「呉の孫権」が、魏に対抗するために多くの大船を作った。そして「公孫淵」との共同作戦や集民のために一万人もの兵をのせて出兵した。この結果は、8000 人位は帰って来なかったという。

日本各地の徐福伝説はこのような歴史的事実によるものもあろう。

日本人の祖先は大陸から来た人たちが主流であると思われる。約 12,000 年前、大陸から分断されて西太平洋上に日本列島となった。それ以来、最古のアジア大陸からの渡来者に加えて、東シナ海ルート、南洋ルート、朝鮮半島ルート、北方ルートからの渡来者により日本列島の住民は形成されたのであろう。

そして、徐福の時代の前後の渡来者も加わり、現在の日本人の原型が出来たのだろう。

参考：史記(始皇本紀、淮南衡山列伝)、司馬遷史記(徳間書店)